

LLL300 第二言語習得

3年 1,2クォーター

担当教員 Ivan Lombardi, Ph.D.

授業形態 講義

アクティブ・ラーニング アクティブ・ラーニング科目

単位数 2

曜日・時限 木曜日・3時限

授業概要

第2言語習得 (SLA) 分野における基本的な原理とテーマを扱う。学生は、「母語習得後の言語学習はどのように行われるか」「どういった要因がどのように言語習得に影響を与えるのか」「SLA 研究がどのように言語教育に役に立ち、影響を与えるかなどについて探究することが求められる。また、学生はバイリンガリズムと言語学習を取り巻くいくつかの神話について批判的な視点から評価することも求められる。

到達目標

1. SLA 分野における重要な概念と成果について確立した知識を獲得する。
2. SLA での研究領域と方法論に習熟する。
3. 言語習得および言語学習にまつわる様々な神話について議論し、その実体を解明する。
4. 複数言語学習を成功させてきた自らの経験を顧みる。
5. 言語学習過程を個人レベルに適応させて理解する。

先修科目

LLL 210 言語学入門

教科書・参考資料等

研究資料は各クォーターの最初に授業内で配布する。

授業の方法

ワークショップ形式をとり、クラス内での積極的な参加が必須となる。毎週担当教員が新しいトピックを導入するきっかけを与え、課題の読み物の内容、及び第2言語習得者としての学生自身の個人的な経験を関連付ける手助けを行う。学生には課題の講読資料の内容に対する自らの見解を授業内で披露し、他の学生と共に週ごとのトピックに対する理解を深めることができるよう、準備をしていくことが求められる。

成績評価

毎週ピアティーチングやピアラーニングを行うため、出席と授業への貢献が評価の中心をなす。第2週目から毎週、小人数のグループがファシリテーターとしての役割を担う。ファシリテーターに指名されたグループは、授業内で他の学生に回答を求めるようなスタディ・クエスチョンの準備を事前に行い、担当週でグループディスカッションをコーディネートする。学生は全員が各期につき少なくとも1度はファシリテーター・グループの役割を担うことが求められる。スタディ・クエスチョンは担当教員によって評価される。また、各期の終わりに簡単な試験を実施する。

成績

30%	クォーター末の試験
25%	グループ・ファシリテーターティング
25%	スタディ・クエスチョンに対する回答
20%	出席とクラスへの貢献

授業スケジュール

第1週：導入、講義方法

オリエンテーション、講義方式について（グループ・ファシリテーターティング、スタディ・クエスト）、言語習得/言語学習についての自身の経験の考察。

第2週：第2言語習得とは何か？

SLA 研究領域とその目的に関する理論的概要。SLA 研究領域の発展についての歴史の概要。現在さまざまな場面で言語教育プログラムの要として使われる主要な研究成果について。

第3週：幼児期における言語習得

幼児期から就学前・就学後までの各発達段階を通して見られる、子供の第1言語習得のメカニズム。

第4週：言語習得に影響する言語的要因

言語習得に影響を与える本質的な言語的要因としての普遍文法と類型論的普遍性の概念について。

第5週：言語習得に影響を与える非言語的要因

言語習得に影響を与える非言語的（すなわち、認知的、心理的、社会文化的）要因について。

第6週：言語習得の個人差

1人1人が固有であるのと同様、言語習得のすべての事例も固有である：SLAにおける個人差とその研究について議論する。言語学習に関連する通俗的な考え方を批判的に捉え、自身が好む言語学習法について考察する。

第7週：中間言語の概念

中間言語の概念の始まりと発展及び言語習得を理解し記述することにおける主要な役割。

第8週：第1クォーターの試験

第1クォーターの内容に関する記述もしくは口述試験。

第9週：1つの心、多くの言語

バイリンガリズムと多言語主義が取りうる多くの形について、複数の言語を知っていること及びそれを使用することが、どのように脳の構造、思考のプロセス、異文化との関係、及び学習に影響を与えるか、に焦点を当てつつ概観する。

第10週：第2言語の語彙の学習

第2言語学習においてどのように語彙が習得されるのかについて議論し、語彙習得を取り巻くいくつかの神話を批判的に評価する。

第11週：第2言語の文法の学習

第2言語学習においてどのように文法が導入されるのかについて議論し、文法教育及び文法学習を取り巻くいくつかの神話を批判的に評価する。

第12週：第2言語の発音の学習

第2言語学習において様々な発音の要素がどのように習得されるのかについて議論し、第2言語における音声と音声パターンの生成及び理解を取り巻く、いくつかの神話を批判的に評価する。

第13週：第2言語の書き方の学習

言語内及び異言語間の文章の作成について。第2言語のライティングを取り巻く神話とそれが内包する意味についてディスカッションし、批判的に評価する。

第14週：SLAから言語教育へ

SLA 研究はフォーマルな場面での言語教育にどう応用できるか。SLA 理論から第2言語学習の教室における教育と学習への橋渡しについて概観する。

第 15 週：言語教育と言語学習の目標

学生 1 人 1 人の言語学習体験を振り返り、言語に関連した自身の目標について、言語学習における目標の本質に関する考察及びその実現がどの程度可能かという認識を裏付けとした省察を行う。

第 16 週：第 2 クォーターの試験

第 2 クォーターの内容に関する記述もしくは口述試験。

事前・事後学習

- ・ 予習：参考図書該当する章を予習してくる（1 時間程度）。
- ・ 復習：授業内容を復習し、疑問点を整理すること（1 時間程度）。